



Social Blindness

(vol.1 NO.1)

社会が見えないという困難から、「いまここで起きていること」を問う

身体というハードウェアの変異が、いまここで起きている空間実践にズレを生み出すとき、信頼・役割・了解に何が起きるのか。このような空間実践から文化現象が生成する過程をゲームを通じてどのようにモデル化できるのか。空間自体が電子的に拡張するときに、私たちの空間実践はどのように変容していくのか。境界の中の境界から、目隠しの向こう側から、日常空間に多重化された異界から、私たちは問う。

研究者、精神科医、発達障害当事者が「社会が見えない」(Social Blindness)について独自の視点で論考。コミュニケーションの問題、現代をとりまく文化の問題に新たな視座を提供する。

頒布予価：1000円／A5版116頁

contents

captor1

青山陽子

役割を遂行するとはいかなる営みなのか：
役割論からみるアスペルガー者の役割逸脱事例

captor2

米田衆介

自然化された了解概念について

captor3

渡壁典弘

アスペルガー者の社会性とコミュニケーションの問題：
社会的組織における「信頼」と「規範」の考察

captor4

空地裕介

ゲームから見る文化現象の生成モデル

captor5

長田攻一

「いまここで起きていることは何か」：
「空間実践」とメタコミュニケーション

下記のスペースにてお求めいただけます。通信販売についてはメールでお問い合わせください。

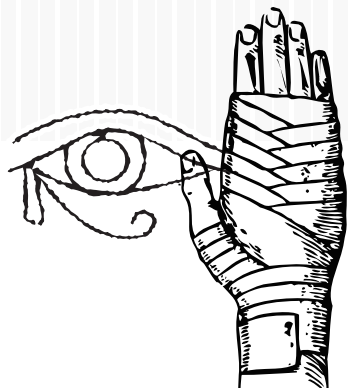
金曜日 東ハ47b アキハバラ・アサイラム

お問い合わせ： akihabara.asylum@gmail.com

社会が見えないという困難から、「いまここで起きていること」を問う

Social Blindness

青山 陽子
米田 衆介
渡壁 典弘
空地 裕介
長田 攻一



目次

第1章 役割を遂行するとはいかなる営みなのか 役割論からみるアスペルガー者の役割逸脱事例（青山 陽子） 1

- 1.問題提起：役割論の理論形成過程を振り返って 1
- 2.アスペルガー障害（AS）とはなにか：その歴史と診断基準 3
- 3.メタ表象と「心の理論」：「心の理論」は果たして何を捉えているのだろうか 4
- 4.ゴフマンによる従来の役割概念の概観 6
- 5.ゴフマン理論の役割論：状況場面における役割遂行 8
- 6.役割遂行において社会が見えないと何が起るのか：AS者の事例からの検討 11
- 7.システムにおける役割分化のプロセス：障害者就労支援に対する示唆 13
- 8.結びにかえて 16

第2章 自然化された了解概念について（米田 衆介） 21

- 1.はじめに 21
- 2.擬似生物学主義の誤謬 21
- 3.生物学的精神医学と主観主義 23
- 4.了解概念を社会化する 24
- 5.表象の内部形式とは何か 25
- 6.認識と対象の問題 27
- 7.内的表象から表現へ 28
- 8.静的了解概念の批判と、その自然的理解 29
- 9.発生的了解の社会化 31
- 10.たとえば体験を語ること 33
- 11.生物学的多様性と集合表象 34

第3章 アスペルガー者の社会性とコミュニケーションの問題 社会的組織における「信頼」と「規範」の考察（渡壁 典弘） 39

- 1.序 39
- 2.発達障害者の雇用の現状と障害の「企業モデル」 41
- 3.障害者雇用の外部効果 41
- 4.「組織内マクロ労働生産性」と発達障害 42
- 5.ソーシャル・キャピタル（SOCIAL CAPITAL） 45
- 6.信頼（TRUST） 48
- 7.発達障害におけるソーシャル・キャピタル論：筆者の事例 48
- 8.「弱い紐帯の強み」：新しいネットワーク 55
- 9.規範（NORMS） 58
- 10.「規範」：筆者の経験 63
- 11.まとめ 68

第4章 ゲームから見る文化現象の生成モデル（空地 裕介） 73

- 1.概要 73
- 2.文化の定義 75
- 3.ゲームのダイナミクス 78
- 4.文化現象としてのゲーム 88

第5章 「いまここで起きていることは何か」 「空間実践」とメタコミュニケーション（長田 攻一） 93

- 1.はじめに 93
- 2.対面的相互作用空間とメタコミュニケーションの規則体系 94
- 3.ゴフマンのミクロな相互作用空間と空間実践のダイナミズム 97
- 4.フレームの類型的空間規則の源泉—ヘテロトピア論と空間の生産論からのヒント— 99
- 5.今後の課題：現代ネット社会における空間の序列化と空間実践 102
- 6.おわりに 106